

専門職女性のキャリアと子産み・子育てとの関係についての一考察
—女性税理士の事例研究から
鶴沢由美子（お茶の水女大）

【目的】女性の就業分野として、専門職は女性の進出や適応の可能性が指摘されてきた。しかし、日本における専門職に関する研究は、専門職の特性をめぐる議論や女性の多い専門職についての研究などの蓄積はあるものの、男性の多い専門職に就業する女性に焦点を当てた研究は少ない。報告者は、かかる専門職の一例として税理士を対象に、事例研究によって、女性が参入し定着しうる要因を探ることを目的に調査研究を行った。本報告では、女性の就労に影響の大きいライフ・イベントである子産み・子育てと女性税理士のキャリアとの関係を中心に報告する。

【方法】①東京税理士会所属の女性税理士31人、男性税理士3人に対する準自由会話方式によるインタビュー。調査期間は1993年6月から12月及び1994年4月から7月。②女性税理士の仕事や婦人税理士連盟の活動、税理士試験受験の予備校の授業等の観察。

【結果】税理士に参入・定着することと、子産み・子育てとを両立することの促進要因として、以下のことが挙げられる。①税理士試験が、5科目を何年かけて合格してもよい科目合格制度であり、年齢制限もなく、準備の中断も可能であること②税理士の仕事が、勤務先や就業形態、開業場所や就業時間、仕事量などを柔軟に調整できる自己裁量・自律性の高さを有していること③税理士業が、ある程度の年齢であるほうが顧問先から信頼されやすく、また顧問先の会計税務のみならず家族問題を含む精神面のサポートをすることも多いので、様々な人生経験がいかされ、中途参入が不利にならない仕事であること、などである。